

# 嶺北農業改良普及所の取組

平成30年度 普及指導活動実績書



平成31年3月

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

## 目 次

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| はじめに                        | 1-2   |
| 1 総合課題                      |       |
| (1)次世代定着につなげるれいほく園芸産地の再生    | 3-6   |
| ① ハ菜ブランド維持拡大にむけた園芸部活動の活性化   |       |
| ② 園芸基幹品目の生産維持・拡大及び経営管理能力の向上 |       |
| ③ 環境制御技術の啓発等による普及推進         |       |
| (2)中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり    | 7-12  |
| ① 集落営農の推進                   |       |
| ② 中山間農業複合経営拠点の活動支援          |       |
| 2 個別課題                      |       |
| ① 持続性のあるユズ産地の育成             | 13    |
| ② 花きの安定生産技術の確立              | 14    |
| ③ 有機栽培トマト農家の経営安定            | 15    |
| ④ 中山間地域の大規模土地利用型法人の経営改善     | 16    |
| 3 調査・研究（実証ほ）                | 17-22 |
| (1) カラーピーマン新品種の栽培実証         |       |
| (2) 有望品目甘長トウガラシの普及に向けた栽培実証  |       |
| (3) ミニトマトの病害（葉かび病）防除対策の実証   |       |
| 4 トピックス（普及活動情勢報告）           | 23-61 |
| 5 活動体制図                     | 62    |

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 表紙写真 | （左上） ユズ                  |
|      | （右上） れいほくハ菜（米ナス）         |
|      | （左下） ノーブル新品種 ‘アイカ’       |
|      | （右下） 農地を守る仕組みづくり交流会（本山町） |

## はじめに

嶺北農業改良普及所管内では、中山間地の棚田を活用した水稻、夏秋野菜、畜産等の農業生産が行われています。

普及所では、平成 28 年度から取組が始まった「第 3 期高知県産業振興計画産業成長戦略（農業分野）」の実現にむけ、「生産力の向上と高付加価値化による産地の強化」「中山間地域の農業を支える仕組みの再構築」「流通・販売の支援強化」「生産を支える担い手の確保・育成」「地域に根差した農業クラスターの形成」の 5 つを戦略の柱に「地域で暮らし稼げる農業」を目指し取組を進めています。

本冊子は、平成 30 年度の実績と成果などについてまとめたものであり、皆様方の今後の取組の参考になれば幸いです。

### 地域の概要

管内は、四国の中央部、吉野川の上流域にある本山町、大豊町、土佐町、大川村からなり、総面積は 757km<sup>2</sup> で標高 200m～1,800m の山岳地形のため森林が 88% を占めています。

経営耕地は総面積の 1.1%にあたる 800ha で標高 200m～900m の山間地に棚田状に点在しており、夏期には太平洋からの湿った空気が四国山地に吹き付けるため、年間降水量は 2,600mm を超えています。年平均気温は 13.9℃で平野部の高知市より 3℃低く、冬期には季節風が降雪をもたらすこともあり、最低気温が氷点下になる日もたびたびあります。



早明浦ダム



棚田とハウス

## ～農業・農村の動き～

平成10年度

○県認証を活用した減農薬栽培開始（スナッペンドウ、5戸）

平成11年度

○大豊町ゆとりファームが「日本農業賞団体の部」の特別賞を受賞する。

○減農薬栽培グループが6名、0.3haになる。

○本山町農業公社のライスセンターが稼働する。

平成12年度

○園芸部減農薬部会（4品目、80名）が発足する。

○土佐町堆肥センターが建設され、堆肥生産が開始される。

平成13年度

○園芸部減農薬部会（8品目、207名）が拡大する。

○こだわり米部会が減農薬栽培の県認証を取得する。

○「れいほく八菜」「れいほく八草」が誕生し、ブランド化の取り組みが始まる。

○生産者、農協、町村の環境保全等に関する「地域宣言」がなされる。

平成14年度

○園芸部ISO部会（11部会、205名）が発足、溜井野菜研究会と共にISO14001認証を取得する。

○第8回環境保全型農業推進コンクール大賞を受賞する。

○「れいほく八〇構想」が策定される。

○「れいほく八恵」「れいほく八花」が誕生する。

○米ナスを自ら食べる週間が始まる。

平成15年度

○県認証を活用した減農薬栽培が拡大する（9品目、延260名）。

○無農薬柚子部会が県認証を取得する。

○「れいほく八祭」が始まる。

○嶺北地域園芸戦略会議が発足する。

○「れいほく八福」が誕生する。

平成16年度

○「れいほく八菜」の売り上げが3億円を突破する。

○「れいほく八里」が誕生する。

平成17年度

○JA土佐れいほく園芸部ISO部会が第35回日本農業賞団体の部で大賞を受賞する。

○IPM研究会が発足し、IPM技術高度化に向けた取り組みが始まる。

○果樹産地協議会が発足する。

○本山さくら市が開店、「れいほく八直」が誕生する。

○有機のがっこう「土佐自然塾」が開校される。

平成18年度

○柚子加工施設が再整備される。

○嶺北地域農業振興計画が策定される。

○生産者、農協、町村による「第二次環境宣言」がなされる。

○天敵昆虫の産地間リレーが始まる。

○れいほく八菜版GAPの取り組みが開始される。

平成19年度

○JA営農経済部、花卉・柚子・特別栽培部会がISO認証を取得する。

○吉野川下流域（香川、徳島）2団体と園芸部が交流する。

○大豊町基茶がH18地域食品ブランド表示基準「本葉の本物」に認定される。

○IPM技術の普及面積が12.7haとなる（天敵2.5ha、黄色灯3.0ha、UVカット14.6.0ha、訪花昆虫1.2ha）。

平成20年度

○有望品目の生産が拡大する（ショウガ14戸132a、アスパラ5戸17aなど）

○こうち型集落営農への取り組みが本山町吉集落で始まる。

○基茶生産組合が第23回高知県地場産業大賞で地場産業賞を受賞。

○県産業振興計画、嶺北地域アクションプランが策定される。

平成21年度

○こうち型集落営農への取組が土佐町伊勢川集落で始まる。

○米粉プラント、パン工房（米米ハート）が整備される。

○本山町でブランド米「土佐天空の郷」の生産・販売が始まる。

○コープ香川5店舗JA高知市2店舗でれいほくコーナーが設置される。

平成22年度

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「お米日本一コンテスト in しずおか」で最優秀賞に輝く。

○コープかがわの6店舗に嶺北コーナーが設置拡大されるとともに、嶺北野菜が組合員を対象としたカタログによる無店舗販売も始まる。

○JA土佐れいほくの新柚子加工施設が完成する。

○有望品目の三色ピーマンが9戸（56a）から24戸（1.9ha）に面積拡大する。

○こうち型集落営農に取り組む吉集落にミニライスセンターが竣工し生産基盤が整う。

平成23年度

○JA出資型法人「(株)れいほく未来」が設立される。

○JA土佐れいほく園芸部による「れいほく版ISO」の自主運営が始まる。

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「米・食味分析鑑定コンクール環境王国部門」で金賞を受賞する。さらに、JA土佐れいほくのブランド米「雲海の光」の生産も始まる。

○「第13回高知県担い手サミット in れいほく」が土佐町で開催される。

○コープかがわの10店舗に嶺北コーナーが設置される。設置拡大、さらに県内では初めて卸販売店に八菜コーナーが設置される。

平成24年度

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「米・食味分析鑑定コンクール栽培別部門水田環境特」で金賞を受賞する。

○県が中山間対策として推進する「集落活動センター」第1号として本山町の「汗見川」、第2号として土佐町の「いしはらの里」が開所される。

○野生鳥獣に強い集落づくり事業に係る指定集落（重点集落）として、本山町古田、大豊町八畝が指定される。

○環境ISO実践農家グループが解消され、JA土佐れいほく園芸部が独自に取り組む「れいほく版ISO」の新しいマニュアルが作成される。

○第2期高知県産業振興計画、嶺北地域アクションプランが始動する。

平成25年度

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「米・食味分析鑑定コンクール・都道府県選抜代表部門」で金賞を受賞する。

○野生鳥獣に強い集落事業により、本山町吉延、大石地区で防護柵が設置される。

○れいほく八菜の販売額が再び2億円（206,966千円、前年比118%）を突破する。

○本山町に滞在型市民農園「クラインガルテンもとやま」が開校される。

○六次産業化・地産地消法「総合化事業計画」に本山町の(株)ウインドファミリーが認定される。

平成26年度

○本山町ブランド化推進協議会が「ディスカバー農山漁村の宝」に選定される。

○本山町農業公社が設立20周年を迎える。

○六次産業化・地産地消法「総合化事業計画」に本山町の「山下農園」が認定される。

○野生鳥獣に強い集落事業により土佐町伊勢川地区で防護柵が設置される。

○JA土佐れいほく柚子部会が、青果ユズのオランダ輸出を開始する。

○大豊町に集落活動センター「西峯」が開所される。

平成27年度

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「お米日本一コンテスト in しずおか」で金賞及び品種賞を受賞する。

○農業技術センター山間試験室跡地を活用して、担い手研修施設として大豊町山村農業実践センターが開所される。

○本山町では（一財）本山町農業公社、大豊町では（株）大豊町ゆとりファーム、土佐町では（株）れいほく未来を核として中山間農業複合経営拠点が位置づけられ取組みが始まる。

平成28年度

○本山町のブランド米「土佐天空の郷」が「お米日本一コンテスト in しずおか」で実行委員会会長賞（特別最高金賞）に輝く。

○第3期高知県産業振興計画、嶺北地域アクションプランが始動する。

○土佐町松木野集落に集落営農組織「松木野営農組合」が設立される。

○大豊町でトマト生産者組織「大豊とまと」が設立される。

○青果ユズのオランダ輸出が3年目を迎え、1.2tとなる。

平成29年度

○女性農業者を対象とした「はちきん農業大学」が開校する。

○大豊町に集落活動センター「絆の里・いづはら」と東豊永集落活動センター、本山町に集落活動センター「なめかわ」が開所される。

○「第20回全国農業担い手サミット in こうち」が開催される。

○れいほく版ISOから、国のガイドラインに準拠した県版GAPへ移行することが決まる。

○土佐町の松木野営農組合がこうち型集落営農組織になる。

○日本穀物検定協会主催の米食味ランキングで、高知県北地区「にこまる」が初めて「特A」を獲得する。

平成30年度

○国のガイドラインに準拠した県版GAPの取組が始まる。

○嶺北地域農林業振興協議会農業部会の振興計画が更新される。

○JA土佐れいほくが広域合併され、JA高知県になる。

○日本穀物検定協会主催の米食味ランキングで、高知県北地区「にこまる」が再度「特A」を獲得する。

